

(熊本県立御船高等) 学校 令和 6 年度 (2024 年度) 学校評価計画表

| |
|--|
| <p>1 学校教育目標</p> <p>熊本県教育振興基本計画と本校建学の精神である三綱領「誠実以て人に接す」「自ら進んで学を修む」「自律以て己を処す」に則り、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」の教育行動指標を踏まえ、『生きる力』の育成を図る。</p> <p>全職員による「参画と協働」の指導体制のもと、小・中・高・大の連携及び家庭・地域社会との連帯を図るとともに、特色ある学校づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体性とリーダーシップ ○ チャレンジ精神とあきらめない心 ○ 思いやりと感謝の心 |
|--|

| |
|--|
| <p>2 本年度の重点目標</p> <p>「感性と技と志」が育つ御船高校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学ぶ力の育成 個別最適な学びと協働的な学びの実現 ○ 体験に基づいた学習と探究学習の実践 ○ 社会的・職業的自立に必要な能力育成とキャリア教育の充実 ○ 自尊感情と船高生としてのプライドの醸成 自分のよさや可能性を認識するとともに、 あらゆる他者を価値のある存在として尊重する人に ○ 健康・安全教育の徹底 |
|--|

| 3 自己評価総括表 | | | | |
|-----------|--------------|-----------------------------------|--|--|
| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 |
| 大項目 | 小項目 | | | |
| 学校経営 | 特色ある学校づくり | 各学科・コース、学校行事の充実が図られている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校の教育目標に基づき学科・コースでは特色ある教育活動を実践し、学校行事は生徒主体で行う。 ○積極的なDX化推進を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本校のグランドデザインを見える化して、学校の目指す姿を共有する。 ・県立高校魅力化きらめきプランによるプロフェッショナルハイスクール及びOne Teamプロジェクトを展開する。 ・DX加速化推進事業によるデジタル環境整備を進めるとともに、文理横断型の学習を進める。 |
| | 学校の魅力発信・生徒募集 | 積極的な学校の魅力発信及び生徒募集の取組が行われている。 | ○定員充足率アップ (R6…全体68.6%、1学年普通科123組63.3%、芸術コース65%、電子機械科97.5%)。また普通科3クラスの充足率を昨年度比5%増加させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介動画を作成しSNS (YouTube、Instagram等) を活用した広報活動を展開する。 ・中学生体験入学における学科・コース別の説明・体験の内容を充実する ・学校パンフレット (全体、電子機械科、芸術コースの3種) 及び学校行事・個別相談会等のポスター等を作成し、積極的な広報活動を実践する。 |
| | 業務改善・働き方改革 | 超過勤務時間への対策及び業務の効率化が図られている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○超過勤務時間の月平均27時間以下を達成する (R5月平均…29時間)。 ○各行事、会議等は効率的な時間設定、運営を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・産業医による指導助言の基準を定めた御船高校ルール、定時退勤日、部活動時間の順守、その他各施策を職員と共有し実践する。 ・各種会議は実施時間及び場所を月行事予定表に記載する。会議資料は事前に担当者へ配布する。 |
| 学力向上 | 授業改善・授業力向上 | 生徒全員の「わかる」「できる」を目指した授業づくりが行われている。 | ○授業ユニバーサルデザイン化に全ての教員が取り組み、ICT機器の活用95%以上を達成し、授業評価のICT活用の評価値を上昇させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の共通取り組み事項を設定した授業のユニバーサルデザイン化にICT活用による、個別最適な学びと協働的な学びの視点を加えた授業研究週間の実施。 ・ICT活用やAL型授業の研修の充実と実践促進のための支援。 |
| | 学力・学習力の向上 | 自ら学び続け、自己更新を続けることができる | ○授業評価における、授業規律、学習への意欲、生徒間で話し合い考えうる協働的な学び、自分の考えを | <ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びの充実として、オンライン学習教材及びデジタル採点・分析システムを導入して活用する。 |

| | | | | |
|--------------|----------------|------------------------------------|---|--|
| | | 力を培う学びのサイクルを実現している。 | 説明するなどの言語活動などの項目について、評価値を上昇させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ICT活用による学習意欲への喚起、基礎学力の定着を図る授業展開、課題の工夫、学び直しの個別の支援を行う。 ルーブリック評価による授業目標の設定により達成感・成就感を得られるための支援を行う。 「主体的、対話的で深い学び」の視点から、ICTを活用した授業実践に取り組む。 |
| キャリア教育(進路指導) | キャリア教育の充実 | 進路意識の向上、体験活動の充実、進路情報の提供が図られている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○進路目標の早期決定と早期対策を目指す。 ○職業観・勤労観の育成を図る。 ○タイムリーな情報発信と閲覧環境の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路別の進路講座・講演会を実施する。 ・インターンシップや体験型イベントへの参加を推進する。 ・オンラインを活用した資料閲覧環境のさらなる改善に取り組む。 |
| | 進学指導の充実 | 多様な進路希望実現に向けた進学支援体制が充実している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○3年生卒業予定数に対し大学進学率15%以上を目指す。 ○新教育課程による新しい大学入試への対応を講じる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜、学校推薦型選抜入試への対応と個別指導の充実を図る。 ・生徒のポートフォリオ作成支援体制の充実を図る。 |
| | 就職指導の充実 | 県内企業就職率の向上、就職意欲の高揚、内定者への指導が行われている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○希望就職内定率100%、県内就職率70%以上を目指す。 ○効果的な企業情報の収集と担任及び生徒・保護者への提供を図る。 ○就職する生徒の社会生活への円滑な移行と早期離職防止策を講じる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者の適性の早期把握と事前指導の充実を図る。 ・しごとコーディネーター兼キャリアサポーターとの連携をさらに強化する。 ・新社会人セミナーの活用など内定者へのフォローアップの徹底を図る。 |
| 生徒指導 | 規範意識の醸成 | 基本的な生活習慣の確立と規律ある行動が身に付いている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○挨拶の励行と、遅刻者を昨年度の80%に減らす。 ○特別な指導の件数を昨年度の80%にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・8時30分から教室での学習をスタートできるように全学年共通で指導する。 ・「すぐー」を利用して、生徒指導に関する取り組みや資料を配付し、家庭での見守りの強化を図る。 |
| | 交通安全意識の高揚 | 交通マナーの向上と交通事故・違反の減少が図られている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ヘルメット着用義務化に向けた規則作りを行う。 ○原付通学者の違反や事故を起こした際の適切な行動がとれるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会や交通委員会を中心とした啓発活動や講演会を実施する。 ・原付通学生への指導は、交通安全に関する動画視聴や関連資料をもとに加害者になる可能性について理解させる。 |
| | 自主性・社会性の育成 | 生徒会や部活動が充実している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動への参加者を昨年度比120%にする。 ○学校行事の生徒会運営割合を増やし、主体性を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の情報提供をすぐーやclassroomで周知し、参加希望者を増やす。 ・既存の行事に加え、新しい取り組みを企画し、新しい御船高校の流れを作ることによって生徒の主体性を高める。 |
| 人権教育の推進 | 人権意識の高揚 | 人権問題解決に向けた実践力を持つ生徒・職員が育成されている。 | ○人権教育LHR・職員研修の充実を図るため、これまでの取り組みを見直し再構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・熊本県人権子ども集会の視聴を実施する。 ・教職員の部落問題に対する理解を深める研修を実施する。 |
| | 命を大切にする心の育成 | 自他の生命と人権を尊重する心の育成が図られている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○外部機関との連携し、生徒の心を動かす講話を選定する。 ○他者を大切に思う人権教育を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「SNSの使い方」「自分の長所の発見」などについて学習を深める。 ・全校集会時に人権教育主任による講話を実施する。 |
| いじめの防止等 | いじめの未然防止 | 他人を思いやり、いじめを許さない態度が育成されている。 | ○いじめを未然に防止する。 | ・小さなトラブルがいじめに発展しないよう、コミュニケーションを円滑にするソーシャルスキルトレーニングを実施する。 |
| | 指導体制の確立 | いじめ防止対策委員会を核とした組織的取組が行われている。 | ○いじめ事案について組織として対応し、教育的配慮を踏まえて対応する。 | ・いじめが疑われる事案について、早期に丁寧な対応を行い、いじめの解消確認、再発防止を図る。 |
| 地域連携(GS等) | 総合型CSを核とした地域連携 | 地域と連携・協働しながらコミュニティスクールとしての役割 | ○学校と地域が情報を共有し、役割を分担することで、特色ある学校づくりや学校の魅力化に努める。地域に学校の応援団となる。 | ・前回協議会で提案のあった内容(主に学校の広報や生徒募集、生徒の生活面や交通面)を真摯に検討し、レスポンスし信頼を得る。 |

| | | | | |
|--------|--------------|---------------------------|--|---|
| | | を果たしている。 | っていただく。 | ・学習活動やキャリア教育における学習支援体制を構築し、地域人材として積極的な活用を図る。 |
| 特別支援教育 | 的確な個別の支援 | 基礎的環境整備と合理的配慮の提供を実践している。 | ○生徒の困り感を見逃さず、適切な支援を行う。 | ・巡回相談を活用する。 ・教科担当者間で生徒情報を共有し全職員で支援の在り方を検討、実践する。 |
| 環境保健 | 健康管理・健康教育の充実 | 自己管理意識の向上、心身の健康支援が図られている。 | ○生徒の既往歴や持病を把握し、職員内で共通理解を図る。 ○感染症の流行を防ぐ。 | ・行事前健康面談の実施、検診結果や保健室来室生徒への個別指導や支援を行う。 ・健康観察を徹底し、感染予防を啓発する。 |
| | 環境整備 | 環境衛生・エコ実践向上、安全管理が図られている。 | ○環境美化やエコについて意識し行動する。 ○校内の施設、設備の安全管理を徹底する。 | ・美化コンクールを実施する。 ・ごみの分別を呼びかける。 ・安全点検を実施し、事務と連携して早急に対応する。 |

※評価項目の数・内容については、各学校の実態に合わせ自由に設定してください。
(複数枚になってもかまいませんが、重要度の高いものに絞り、項目を整理して記入してください。)